

「ユネスコスクールの新たな展開」に係る進捗について

令和 3 年 9 月 2 日

1. これまでの進捗状況

令和 3 年 2 月

- ・日本ユネスコ国内委員会教育小委員会において、「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」の方向性の議論・決定

令和 3 年 3 月

- ・日本ユネスコ国内委員会総会において報告

令和 3 年 5 月

- ・教育委員会等のユネスコスクール担当課に対して、新たな方向性について周知する事務連絡を发出
- ・ユネスコスクール事務局（公益社団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU））からユネスコスクール及び UnivNet に周知
- ・ユネスコスクール新規加盟申請受付再開
- ・ユネスコスクールウェブサイトにおける教材・資料を充実

令和 3 年 7 月

- ・チャレンジ期間終了判定手続きの再開
- ・ユネスコ本部 ASP 担当課と協議（日本側の取組説明およびユネスコの対応改善を要請）
- ・ユネスコスクール支援大学ネットワーク（UnivNet）運営委員会

令和 3 年 8 月

- ・条件が整った学校に対して、「ユネスコスクール・キャンディデート」となる旨の通知发出
- ・ユネスコスクール・ホームページの加盟校情報にキャンディデート校の情報を追加。
- ・国内ネットワークへの参加方法について案内
- ・関係機関などとユネスコスクールとの連携の具体策について協議

2. 今後さらに対応すべき課題

- ・審査体制及びレビュープロセスの整理
- ・効果的な情報共有と発信方法の拡充
- ・ユネスコスクールのオンライン登録システム（ユネスコ本部）等

ユネスコスクールの申請から加盟までの流れ

以下参考



※令和3年5月現在

①市町村立学校※注1
の場合

②都道府県立学校※注1
の場合

③私立学校※注1、
専修学校、各種学校
の場合

④国立学校※注1、
左記以外の学校
教員養成大学等の場合

加盟希望校は、ユネスコスクール事務局(ACCU)のユネスコスクールウェブサイト上の
加盟希望フォーム(日本語)に必要事項を記入。

ユネスコスクール事務局から確認の連絡を受けた学校は、所管の教育委員会等※注2に、ユネスコスクール
加盟に向けて申請手続きを進める旨連絡の上、ユネスコ本部のユネスコスクールオンラインツールシステ
ム(OTA)上のExpression of Interest(英語)を記入し提出。ユネスコ本部から受付完了のEメールを受信
したら、ユネスコスクール事務局へ連絡。

- ① Expression of Interestの情報をもとに、ユネスコスクール事務局がASPUivNet加盟大学から担当大学
を決定。担当大学を加盟希望校へ紹介し、「チャレンジ期間」(=原則1年間)開始。
- ② 加盟希望校は、チャレンジ期間中、担当大学等の指導助言を得つつ、活動報告書及び確認シートを意
識して活動を行う。
- ③ 加盟希望校は、確認シートに記載の確認資料を担当大学へ提出
- ④ 担当大学は、確認資料等に基づき、確認シートに沿って、チャレンジ期間終了の可否を判断。可の場合
は、担当大学が活動報告書に推薦コメントを記入し、事務局から加盟希望校へ送付。
- ⑤ 加盟希望校は、活動報告書を完成し、ユネスコスクール事務局(電子データ)及び所管の教育委員会
等へ提出。

市町村教育委員会へ提出※注3

都道府県教育委員会※注3へ提出

都道府県知事部局※注3へ提出

日本ユネスコ国内委員会(文部科学省)へ活動報告書を提出 ※注4

ユネスコ本部が各校へApplication form提出案内のEメールを送信
→加盟希望校は、Eメール受信後、OTA上でApplication form(英語)を記入し提出。

・日本ユネスコ国内委員会がApplication form提出を確認後、ユネスコ本部に加盟申請※注5
・日本ユネスコ国内委員会から「ユネスコスクール・キャンディデート」として日本国内ネットワークへ
の加盟・参加を認める通知を送付

ユネスコ本部の審査を経て、ユネスコ本部が日本ユネスコ国内委員会宛てに認定証等を送付

日本ユネスコ国内委員会が所管の教育委員会等へ認定証等を送付。
教育委員会等が各学校へ認定証等を送付。

日本ユネスコ国内委員
会が各学校へ認定証等
を送付

注1:学校=幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校を指します。

注2:「教育委員会等」には知事部局も含まれます。所管の教育委員会等とは、原則として活動報告書の最初の提出先となります。(例:①市町村立学校の場合
は市町村教育委員会。)

注3:政令指定都市の場合は、加盟希望校→政令指定都市教育委員会等→日本ユネスコ国内委員会(文部科学省)の順に提出。

注4:チャレンジ期間の活動内容を踏まえて正式申請の手続きを取ることとなるため、教育委員会等を通じて日本ユネスコ国内委員会へ提出された後、必要
に応じて、資料の追加提出・加筆・修正・再提出が求められる場合があります。

注5:ユネスコ本部での手続きに半年以上かかることがあります。また、ユネスコ本部の指示により、今後申請手続きが変更する可能性がありますので御了承
ください。

注6:チャレンジ期間終了における基準及び手続きについては、今後変更予定のため、改訂版は追って送付します。

チャレンジ期間終了可否判断流れ

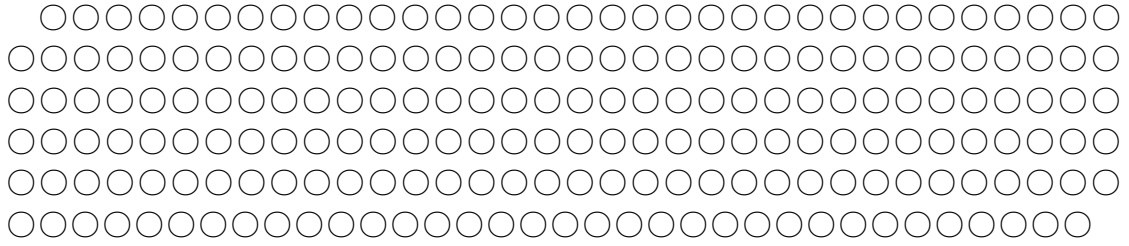
1. 2020年9月申請対象校（74校）

時期	申請内容
2021年 7月1日～ 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【申請校】「ユネスコスクール加盟希望校活動内容確認シート」（以下「確認シート」）の観点に該当する資料を担当支援大学へ提出
8月1日～ 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【支援大学】各申請校の提出資料を元に「確認シート」を用いて可否判断 <u>可の場合：以下2点を事務局へ提出</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「(4) ASPUnivNet 担当大学からの推薦コメント」記入済みの「ユネスコスクール加盟希望校活動報告書」（以下「活動報告書」） 2. 採点済みの「確認シート」 <u>否の場合：以下事務局へ提出</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 採点済みの「確認シート」
9月1日～ 9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【加盟申請校】教育委員会経由で日本ユネスコ国内委員会へ「活動報告書」提出 ● 【加盟申請校】事務局へもデータで「活動報告書」提出
10月1日～ 10月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【MEXT】国内審査
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 【事務局】加盟申請校へ国内審査委結果通知
11月以降	<ul style="list-style-type: none"> ● 【MEXT・事務局】キャンディデート校登録準備

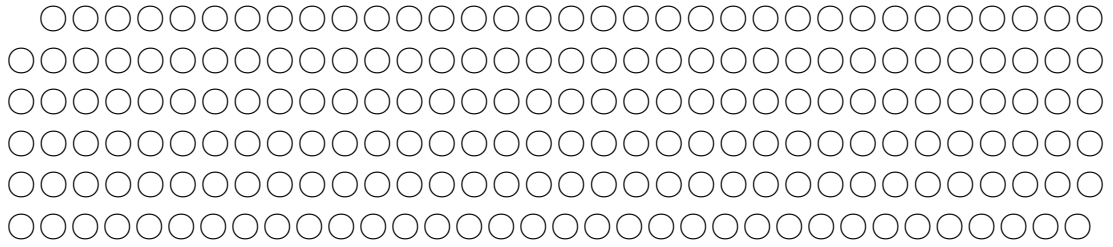
2. 2021年3月申請対象校（26校）・2021年9月申請対象校（28校）

時期	申請内容
2021年 9月1日～ 9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【申請校】「ユネスコスクール加盟希望校活動内容確認シート」（以下「確認シート」）の観点に該当する資料を担当支援大学に提出
10月1日～ 10月31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【支援大学】各申請校の提出資料を元に「確認シート」を用いて可否判断 可の場合：以下2点を事務局へ提出 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「(4) ASPUnivNet 担当大学からの推薦コメント」記入済みの「ユネスコスクール加盟希望校活動報告書（以下「活動報告書」）」 2. 採点済みの「確認シート」 否の場合：以下事務局へ提出 <ol style="list-style-type: none"> 1. 採点済みの「確認シート」
11月1日～ 11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【加盟申請校】教育委員会経由で日本ユネスコ国内委員会へ「活動報告書」提出 ● 【加盟申請校】事務局へもデータで「活動報告書」提出
12月1日～ 12月27日	<ul style="list-style-type: none"> ● 【MEXT】国内審査
2022年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 【事務局】加盟申請校へ国内審査委結果通知
1月以降	<ul style="list-style-type: none"> ● 【MEXT・事務局】キャンディデート校登録準備

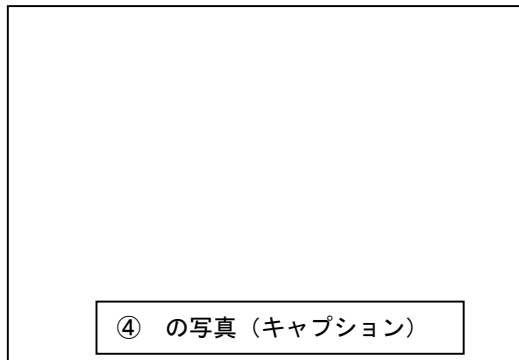
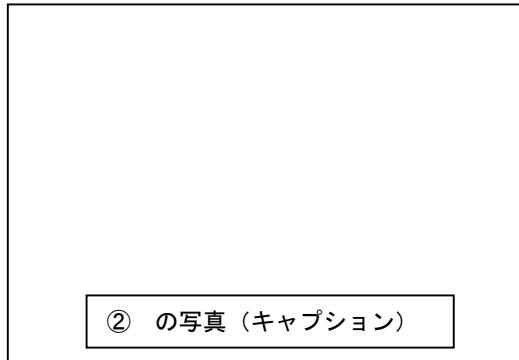
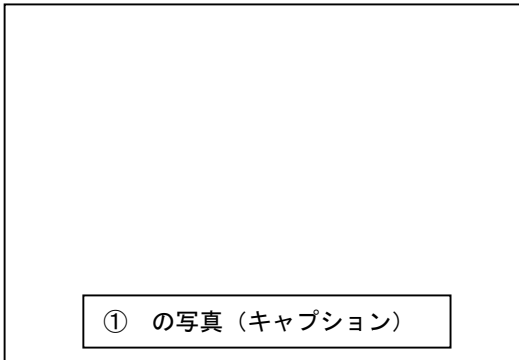
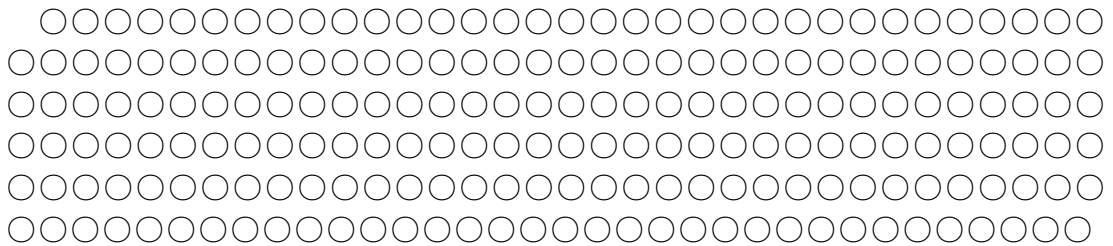
② ▼▼に係わる教育



③ ▲▲に係わる学習



④ ●●に係わる学習



(2) 活動の詳細

① 基礎情報

ア. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)	
<input type="checkbox"/> 2. 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)	
<input type="checkbox"/> 3. 代替案の思考力(批判力)	<input type="checkbox"/> 4. データや情報の分析能力
<input type="checkbox"/> 5. コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/> 6. リーダーシップの向上
<input type="checkbox"/> 7. その他(自由記入)	

イ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)	<input type="checkbox"/> 2. 時間外活動の時間を使用
<input type="checkbox"/> 3. ユネスコクラブ等の活動として実施	<input type="checkbox"/> 4. その他(自由記入)

ウ. SDGs(国連持続可能な開発目標)の目標のうち意識した分野(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 貧困をなくそう	<input type="checkbox"/> 2. 飢餓をゼロに	<input type="checkbox"/> 3. すべての人に健康と福祉を
<input type="checkbox"/> 4. 質の高い教育をみんなに	<input type="checkbox"/> 5. ジェンダー平等を実現しよう	<input type="checkbox"/> 6. 安全な水とトイレを世界中に
<input type="checkbox"/> 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<input type="checkbox"/> 8. 働きがいも経済成長も	<input type="checkbox"/> 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
<input type="checkbox"/> 10. 人や国の不平等をなくそう	<input type="checkbox"/> 11. 住み続けられるまちづくりを	<input type="checkbox"/> 12. つくる責任、つかう責任
<input type="checkbox"/> 13. 気候変動に具体的な対策を	<input type="checkbox"/> 14. 海の豊かさを守ろう	<input type="checkbox"/> 15. 陸の豊かさを守ろう
<input type="checkbox"/> 16. 平和と公正をすべての人に	<input type="checkbox"/> 17. パートナーシップで目標を達成しよう	

- ② 当該活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200字程度）

--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

- ⑥他機関との協働・交流、ネットワークやコンソーシアムの活用
国内外の学校とのネットワークの構築に向けた取組
(200字程度)

4. 加盟申請に向けた今後の活動計画

(※ユネスコへ申請する Application form の記載項目に対応)

- (1) ユネスコスクール加盟認定後、ユネスコスクールの使命や目的を踏まえて、学校としてどのような活動に取り組んでいくか、記載してください。(チャレンジ期間中の活動も踏まえつつ、全般的な活動方針を記載すること。)(100～120字)

- (2) 上記ア. の記載内容のうち、ユネスコが定めるユネスコスクールの重点活動分野である以下の3つのテーマに即して、ユネスコスクール加盟認定後、学校としてどのような活動に取り組んでいくか、チャレンジ期間中の活動も踏まえつつ、テーマごとに具体的に記載してください。(各100～120字)

- 重点活動分野1 「地球市民教育、平和と非暴力の文化」に沿った活動

- 重点活動分野2 「持続可能な開発と持続可能なライフスタイル」に沿った活

- 重点活動分野3 「異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重」に沿った活動

(3) 自校の活動に関連するユネスコのテーマ（複数選択可）

- Global Citizenship 地球市民教育
- Culture of peace and non-violence 平和と非暴力の文化
- Sustainable development 持続可能な開発
- Sustainable lifestyles 持続可能なライフスタイル
- Intercultural learning 異文化学習
- Appreciation of cultural diversity 文化多様性の理解・尊重
- Cultural Heritage 文化遺産

(4) 自校の活動に関連するキーワード（複数選択可）

- Artificial Intelligence 人工知能(AI)
- Arts 芸術
- Biodiversity 生物多様性
- Climate Change 気候変動
- Democracy and justice 民主主義と正義

- Disaster risk reduction 防災
- Discrimination 差別
- Environment 環境
- Freedom of Expression 表現の自由
- Gender equality ジェンダー平等
- Health and HIV/AIDS 健康と HIV/AIDS
- Holocaust remembrance ホロコースト
- Human rights 人権
- Inclusion and equality インクルージョンと平等
- Indigenous peoples 先住民族
- ICT 情報通信技術
- Languages 言語
- Learning to live together 共に生きることを学ぶ
- Media and Information literacy メディアと情報リテラシー
- Migration and refugees 移民と難民
- MUN-Model UN/Model UNESCO 模擬国連・模擬ユネスコ
- Oceans 海洋
- Peace 平和
- Preventing violence extremism 暴力的過激主義の防止
- School violence and bullying 校内暴力といじめ
- Slavery and slave trade 奴隷制度と人身取引
- Solidarity 連帯
- Sports and sports value スポーツとスポーツの価値
- Science education 科学教育(理科教育)
- Sustainable Development Goals (SDGs) 持続可能な開発目標
- Tolerance 寛容
- Water 水
- Whole-school approach ホールスクールアプローチ

5. ASPUnivNet 担当大学からの推薦コメント【大学記入欄】

===== ※以下は公表しません =====

●担当者名

職 名 _____
氏 名 _____ (男・女)
電 話 _____
E-mail _____

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。
(共用メールアドレスがない場合は、個人メールアドレスでも可。)

ユネスコスクール加盟希望校 活動報告書 記入にあたっての留意事項

(1) 活動の狙いと概要

- ✓ 単なる活動の羅列に留まらず、例えば、学校理念とユネスコスクール及びESDの理念との結びつきや、ESDをどのように捉え、学校で従来行っていた活動をESDの観点からどう捉えなおしたかについても記入ください。
- ✓ SDGs(国連持続可能な開発目標)の17の目標を意識した場合は、それが分かるように記入ください。

(例1) ①貧困、②飢餓、④教育、⑩平等、⑫持続可能な生産と消費、⑯平和と公正、⑰パートナーシップ を意識して活動した場合の記載例

・フェアトレードについて背景を学び、地域でフェアトレード商品の開発、販売に取り組んでいる業者と連携して、子どもの貧困や飢餓問題を周知する広報活動を目的としてフェアトレード商品の配布や販売を行った。

(例2) ⑥水、⑦エネルギー、⑪持続可能なまちづくり、⑬気候変動、⑭海洋保護、⑮森林保護を意識して活動した場合の記載例

・災害について学び、津波や地震のメカニズム、気候変動による災害の発生、防災、再生可能エネルギー、復興などについて学び、地球温暖化を押さえるために身近に何かできるのか様々な世代の人と一緒に考えた。

(2) 活動の詳細

- ① 当該活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。
- ✓ 例えば、学習指導要領との関連付け、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成、教科横断的な指導計画の立案など、該当する内容を記入ください。
- ② ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の方法・

具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

- ✓ 評価対象は、活動を通じた教員や児童生徒の変容、学校全体のESD推進体制をはじめ、活動全般が対象となります。

- ③ 他機関との協働・交流、ネットワークやコンソーシアムの活用
- ✓ ESDコンソーシアム、ESD活動支援センター、各種ネットワークなどの活用状況又は活用に向けた取組について記入ください。

- ④ 国内外の学校とのネットワークの構築に向けた取組
- ✓ チャレンジ期間中に、国内外の学校とネットワークを構築し交流を行っている学校はその実績を記入ください。
- ✓ 具体的な交流実績のない学校は、将来的な交流のためのネットワーク構築に向けて取り組んだ内容を記入ください。

(3) ユネスコスクール加盟後の計画

ユネスコスクールとしての中長期的な活動方針など、学校としての活動の計画を記入ください。

3. その他の留意事項

- ✓ 必ず本様式に記載してください。
- ✓ 学校名は正式名称を記載してください。
- ✓ 当報告書はユネスコスクールホームページに掲載予定です。

ユネスコスクール加盟希望校

【新】活動内容 確認シート

評価者所属	
評価者氏名	
記入日	

学校名：(例) ○○県▼▼市立×××小学校

番号	評価の観点	確認資料例	資料の有無	確認欄
1. 基礎				
1-1 (必須)	ユネスコスクールの使命や目的を理解した上で、ユネスコが特に重視している 3 つの分野（1.地球市民教育、平和と非暴力の文化、2.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、3.異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重）に沿った活動を実践しているか。	- 学校の教育・経営目標等 - 活動実績を示す資料（学校行事、授業研究、特別活動等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-2	ユネスコスクールの活動を通じて育てたい資質や能力を明確にし、課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成したか。	教育課程	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-3	教科横断的な指導計画を立てるなど指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善を行っているか。	指導計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-4	学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境が整っているか。	学校経営方針（体制・環境の整備を示す資料）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-5	今後のユネスコスクールとしての活動の質の向上のため、学校評価において、活動の点検を行ったか。	学校評価書	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 展開				
2-1	SDGs やGAP など国際的な枠組みを意識して活動を行うよう努めているか。	活動実績を示す資料（上記1-1と同じだが、SDGs等と当該活動の関係が分かるもの）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-2	ESD の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果の積極的な発信に努めているか。	広報資料、行事の成果報告書等（発信方法・内容が分かる資料）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-3	地域の多様なステークホルダー（自治体、大学、社会教育施設、NPO、企業等）との連携などを通じて、持続可能な社会の構築のための開かれたネットワークを築くよう努めているか。	協力実績（協力先やプログラム等）が分かる資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-4	交流相手の良さを認め合い、学び合うため、国内外の学校とのネットワークの構築に努めているか。	交流実績（交流先やプログラム等）が分かる資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-5	ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUivNet）をはじめとした高等教育機関の支		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	援や協力を得ながら、活動の充実に努めているか。			
--	-------------------------	--	--	--

合計点数	点
------	---

① チャレンジ期間終了 可 / 否

【判断基準】

基礎、展開の別を問わず、

- 6点以上：チャレンジ期間終了
- 6点未満：チャレンジ期間要継続

② 不十分な点についての今後の改善点【大学記入欄】

【参考 1】ユネスコが特に重視している3つの分野

1. Global citizenship and culture of peace and non-violence（地球市民教育、平和と非暴力の文化）
2. Sustainable development and sustainable life style,（持続可能な開発と持続可能なライフスタイル）
3. Intercultural learning and the appreciation of cultural diversity and heritage（異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重）

（参考）

「UNESCO Associated Schools Network -Guide for National Coordinators-」

<https://unESDoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000261994>

【参考 2】ユネスコスクールガイドライン（平成 24 年 文部科学省）（名称一部変更）

●ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、NPO 等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。

- 必要に応じ、ASPUnivNet 加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

●ESD 推進拠点として大切なこと

- 持続可能な開発のための教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続可能な開発のための教育（ESD）の理念の普及に努めること。

【参考3】SDGs 及び GAP について

●SDGs（持続可能な開発目標）とは

- 2015 年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された 2030 年までの国際開発目標。先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030 年を期限とする包括的な 17 の目標を設定。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むものとなっている。

（参考）国際連合広報センターHP（SDGs について）

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

- 2016 年 9 月のユネスコ執行委員会では、ユネスコが主導機関となっているゴール4のほか、科学技術や文化等に関する計9つのゴールにおいても、ユネスコが重要な役割を果たすことが示された。

（参考）ユネスコが重要な役割を果たすとしているゴール

ゴール4(教育) / ゴール5(ジェンダー平等) / ゴール6(水) / ゴール9(イノベーション) / ゴール11(持続可能な都市) / ゴール13(気候変動) / ゴール14(海洋資源) / ゴール15(生物多様性) / ゴール16(平和)

●「ESDに関するグローバルアクションプログラム（GAP）」について

- 「国連ESDの10年（DESD）」の後継プログラムとして、ESDに関する世界会議（2014 年日本）で正式発表。2015 年～2019 年は、世界各国で GAP に基づき ESD の推進が行われている。

（日本語訳：文部科学省HP）<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm>

- GAP では、ESD の一層の進展を図るため、以下の五つの優先行動分野に焦点を当てている。
 - ① 政策的支援（例：国や自治体の政策との連携）
 - ② 機関包括型アプローチ（例：ホールスクールアプローチを意識した学校・学級運営）
 - ③ 教育者の育成（例：校内外の職員研修の企画、実施、参加）
 - ④ コース（例：若者との連携や、若手教員のコースとしての活動）
 - ⑤ 地域コミュニティ（例：地域の様々なステークホルダーとの連携）